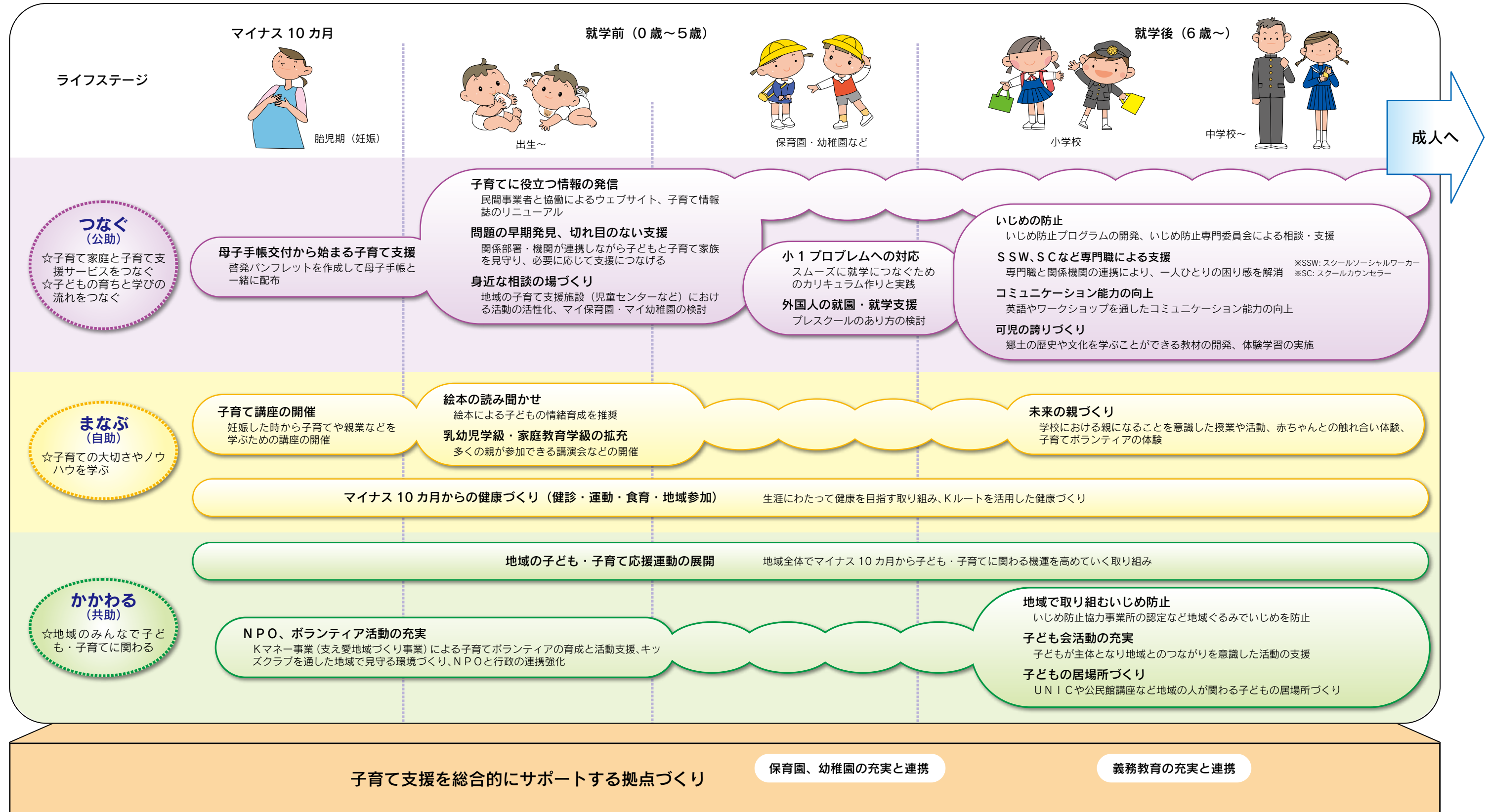


子育てしやすい地域づくりを目指して

マイナス10カ月から つなぐ まなぶ かかわる 子育て

市は、子育ては子どもが生まれてから始まるのではなく、お腹の中に宿ったとき（マイナス10カ月）からすでに始まっていることに重点を置き、そのときから子どもと子育て家庭が地域・社会とつながり、子育ての大切さを学び、みんなで子育てに関わっていく取り組みを推進していきます（主な取り組みは下図のとおり）。

より多くの市民の皆さんが、子ども・子育てに積極的に関わっていく意識を持ち、子育てのしやすい地域づくりを目指しましょう。また、こうした子育てを通して、“①自分自身を認めてあげること ②相手の気持ちを思いやること ③地域で支え合うこと”の3つを大切にでき、いつまでも健康でいられる成人に育てていきましょう。



子育て支援を中核とした拠点づくり

可児駅前の公共用地に“子育て・健康・にぎわい”をテーマとしたシンボリックな空間を創出

「マイナス10カ月から つなぐ まなぶ かかわる 子育て」を推進していくには、各家庭、地域、行政が連携できるよう、子育て支援を総合的にサポートする拠点が必要となります。そこで、市は、子育て支援機能を中心に、健康づくり機能、地域情報発信機能、商業・サービス機能などを駅前公共用地に導入し、市民の交流とにぎわいを創出する考え方を、「可児駅前公共用地利活用に係る機能配置方針」（以下、「機能配置方針」）としてまとめました。



導入機能の絞り込み

可児駅前の公共用地については、平成21年に都市拠点施設基本計画が策定され、望ましい導入機能についての方向性が示されました。こうした検討結果の実現可能性を踏まえ、導入すべき機能を絞り込むために、公共サービスの必要性、民間サービスのあり方を検討しました。

機能配置方針は、市のホームページからダウンロードできます。

公共サービスの必要性

これまで実施した市民意識調査において、満足度が平均より低く、かつ重要度が高いと認識されている施策などで、重点的に取り組むべき課題は次のとおりです。

子育て支援

若い世代の流入促進につながる「子育て世代の安心づくり」が重要です。特に、子育て支援を総合的にサポートする場づくりが求められています。

障がい者福祉

就労機会などの生活支援と相談体制の充実が必要です。また、社会全体で障がい者を支えていくため、若い世代の担い手の育成が求められています。

高齢者福祉

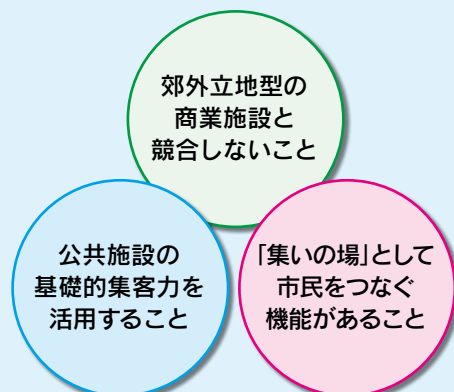
在宅介護・医療体制の充実を進めるとともに、「高齢者の安気づくり」のために、生きがい・健康づくりが求められています。

まちのにぎわいづくり

多様な世代が集まり、世代間交流によるコミュニティの絆を育む機能が求められています。

民間サービスのあり方

駅前ににぎわいづくりを求める声は高まっていますが、中心市街地周辺には、商業施設が多くあるため、ここでの民間サービスのあり方は、次のことが考えられます。



<想定される民間施設>

- ・駅利用者を対象とした商業サービス
- ・目的性の高い専門店(親子カフェなど)
- ・教育、福祉、医療サービスなど

導入する機能と整備の方針について

導入が望ましい機能と整備の方針は次のとおりです。

機 能		施設整備・配置の方針	施設イメージ(例)
子育て支援機能	健診機能 (妊娠期からのケア)	○保健センターが担う「健診機能」と子育てに関わる部署などが担う「学び機能」「相談機能」「交流機能」が互いに連携し、子ども・子育て政策の中核となる施設とする。 ○健診・相談機能は、プライバシーの確保に配慮する。 ○交流機能は、外部空間の広場と一体的に利用できるようにする。	○健診・相談スペース ○講座やワークショップができる学びのスペース ○食育を学ぶ調理実習室
	学び機能 (子育て力のアップ)		
	相談機能 (切れ目のない支援)		
	交流機能 (孤立防止)		
健康づくり機能		○健診機能との一体性に配慮し、運動や食育などを通して幅広い世代が健康づくり、リフレッシュできる施設とする。 ○軽運動などのスペースは、外部空間の広場や可児川沿いの歩道と一体的に利用できるようにする。	○健康スタジオ ○フィットネスジム
地域情報発信機能		○インフォメーション、展示、物販などができる施設とする。 ○駅前の顔づくりや民間サービス施設との連携に配慮し、駅前広場と面するようにする。	○地場産品のアンテナショップ ○観光案内所
商業・サービス機能		○民間店舗の出店に対応できる施設とする。 ○駅前広場や歩行者通路と面するようにする。	○目的性の高い専門店(食育や地場農林業と連携したレストラン)など ○サービス施設
外部空間	広場	○駅前広場と一体的に、多くの人が集まり、さまざまな市民が活動でき、可児の顔にふさわしい心地よい交流の場となる空間を設ける。 ○子育て支援・健康づくり機能などの共有スペースとして、多目的に利用できる空間を設ける。 ○可児川の景観を楽しみながらリフレッシュし、散策やランニングの起点となる空間を設ける。	
	歩行者通路	駅、可児川の水辺を結び、心地よく安全に通り返れることができ、かつ施設内の各機能へつなぐ通路とする。	
	駐車場	100～150台収容の駐車場を整備する。	

これからの予定

今年度は、この機能配置方針に基づき、企画設計と基本設計を実施します。企画設計については、配置する機能に関連する子育て世代やボランティア、各種団体、利用者として想定される皆さんなどからワークショップやアンケートなどを通して意見を聞き、建築の基本コンセプトなどを作り上げていきます。その作業の終了後に、基本設計を実施する予定です。

問合せ 子育て政策室